

世田谷地域

です。地域の声をふまえて、会議の中で見守っています。

(2) 東京都医学総合研究所新築

これまでの、東京都神経科学総合研究所(府中市)、東京都精神科学総合研究所(世田谷区)、東京都臨床医学総合研究所(文京区)の三研究所が一つになったものです。研究所内には、実験

室、動物施設、アールアイ(放射性同位元素)室などがあり、アルツハイマー病などの認知症疾患、パーキンソン病などの神経疾患、精神障害、がん、感染症などの研究を行っています。

この研究所についても、安全確保など様々なことを協議するため、東京都医学系総合研究所連絡協議会があり、上北沢

地区町会・自治会が構成委員として会議に参加しています。

(3) 精神医療センター(仮称)

松沢病院が平成二十四年五月頃に新館を開設する予定。ここでの治療は、精神科急性期医療・精神科救急医療・精神科身体合併症医療・精神科特殊医療・社会復帰医療、八百六十床で治療を

進める予定、と説明を受けています。

この資料は、精神センター(松沢病院)の整備についての資料より。

上北沢小学校新築

平成二十四年四月より入学する1年生は新校舎からスタートとなります。その後、旧体育館、プレハブ校舎の解体、南側と東側の歩道の整備が行われ、平成二十五年頃の完成、式典を

平成二十四年十二月に行う予定です。

新宿松原市場の跡地は、計画では、東京都水道局の施設が出来ます。松原市場は砧市場に移りました。跡地はまだ工事はされていません。近い内に工事が始まると思っています。

わが町と「絆」再生支援事業への思い

駒繫西自治会 会長 和田 幸一



駒繫西自治会 会長 和田 幸一

昨年三月、日本は未曾有の危機「東日本大震災」に見舞われました。この大震災では多くのものを奪われ、失いました。また、天変地異は日本だけでなく、世界中で起きています。大震災から十ヶ月が過ぎ、世界中の人々が様々な形で復興に向けて働きかけてくれています。そうした人々との絆は新たに築い

たものであり、「かけがえない絆」だと思います。「がんばろう東日本」をスローガンに一日も早い復旧復興を願っています。

私達の自治会は、千五百四十八世帯で運営されており、七つの部と高齢者クラブ「おもと会」を置き、会員相互の親睦を深めています。

自治会のほば中央に真言宗智山派西澄寺があり、毎

年大晦日には恒例のせいねん会主催の年越しそばを振る舞い、除夜の鐘撞きに大勢の人達で賑わいます。また、近くには、源頼朝公の馬を繋いだ松を駒繫松と呼んだ故事により、駒繫神社と称するようになったと伝えられる駒繫神社は、五年前に鎮座九百五十年の大祭を遂行いたしました。

地域的には住宅が多く、唯一の商店は三軒茶屋に繋

がる日大通り商店街である。

初代会長横山繁雄氏により発足(昭和三十九年九月、昭和五十一年三月迄)、現在に至っています。現

会長は就任以来、自治会発展のためにと奔走し近隣十町会(下馬六町会・野沢四町会)と今以上に親密になれないかと思っていました所、四年前に区の絆再生支援事業を知り理事会に計り、皆様の賛同を得て、平成二十年資料を提出し受理されました。その結果、隣の地域の放送大学東京世田谷学習センターの秋鹿所長、上原事務長のご好意

により、パソコン二十台を提供して頂き、パソコン教室を開始する事が出来ました。専門家の講師を二名紹



夏休みラジオ体操

平成21年7月11日(火)～12日(金)あさ6時半から
西澄寺さん駐車場にて
お手つたい駒繫西自治会青少年対策部のみなさん

北沢地域



下馬パソコン教室



パソコン教室風景

絆を深め和を大切にしよう 伝統を守り育てるために

代沢中町会 会長 矢島嗣久

介頂き、各町会（十町会）から二名、合計二十名の受講者でスタートする事が出来ました。また、ボランティアで、数名の方にアドバイザーとして協力頂き、昨年で四回目に入り素晴らしい業績を残すことが出来ました。教室が終了しその後の事が話題になり、せっかく十町会の皆様と交流が出来、このまま解散するには忍びないと言う事になりました。下馬まちづくりセンターに相談した所、所長・係長も同意見と賛同して頂き、「パソコンサロン」という名称で、地域の皆さんが自由に参加できるように、毎週金曜日、十時〜十二時迄、参加費三百円（コピー紙代・コピー、お茶・その他）を徴収し、パソコンを習いながらコピーしたり、コピータイムで雑談したり、職員の方達との交流など和気藹々と楽しみます。

他町会同志の情報交換の場として、各町会自治会の

回覧を作成したり、ロゴマークを布地に作製するなど、素晴らしい作品を作られた方々も沢山いらっしゃいます。

これからも地域の絆を大切に、各町会と協力して、有事や緊急な事態に遭遇した場合に様々な形で生れる「絆」を繋いでいくことの大切さを知り、その一翼を担う事ができるよう地域の一員として努力して参りたいと存じます。

はじめに
戦後、街に明るさを取り戻そうとして発足した電灯会が代沢中町会の前身ですが、文字通り周囲を六町会に囲まれた中心に位置する町会です。

町内には代沢まちづくりセンター・北澤八幡神社・森巖寺があり、世田谷名木

百選に選定された樹齢四百年のアラカシが北澤八幡神社に、北沢タウンホールからもよく見える二本のイチヨウの巨木が森巖寺に、旧家伊藤家にそびえるユリノキと緑豊かな閑静な住宅街です。

災害に強い街づくり
発足当初から犯罪・災

害に強い街づくりを目指した町会です。一時集合所には北澤八幡児童遊園が指定されており、避難所としては、小学生の児童が通う代沢小学校と池之上小学校でなく一番遠い富士中学校が指定されています。

いざ災害が発生し避難する事態が生じた時には、恐

らく自分の子どもが通う小学校に避難する人がいることが想定されますので、両小学校の避難所運営委員会には、その点につき、ご理解を得る努力をしていきたいと考えております。

一方、富士中学校避難所運営については、隣りの下代田東町会と一体となつての避難者受入れ訓練を平成二十三年十月十六日に実施しました。今回の東日本大震災で、町会員の防災意識の高まりが見受けられ、数多くの問題点の指摘があ

り、その解決への取り組みと避難者からのボランティア参加とその訓練が必要となります。

心強いのは、中学生の参加があり、貴重な一員と



避難所運営訓練

なっており、今後は事前
に研修を行い、できれば地
域の教育力で全校生徒に配
布する防災テキストの作成を
考えていきたい。

更に一時集合所の体制整
備を本年の重点課題として
おり、地域の協力体制の強
化をはかる為、民生委員・
社会福祉協議会推進員・医
師・介護サービス事務所・
代沢あんしんすこやかセン
ターの諸団体に呼びかけ、
災害時要援護者の支援に生
かすべく、平常時から情報
を交換・収集し災害発生時
に備えていきます。区で提
唱している災害時要援護者
の支援に関する協定を活用
し万全を期したいと思っ
ています。

も大切と考え、吉村昭氏
の「関東大震災」を一読し
ましたが、火災の恐ろしさ
が詳細に描かれておりまし
た。そこから想定されるこ
とは、当町会は、大型車が
通行しにくい道路があり、
災害発生時には消防車が到
着しないことも考え、可搬
式ポンプ二台を整備してお
ります。尚、各家庭の防災
意識の向上を目指し、三月
十日に北澤八幡児童遊園と
その上の境内で消防用スタ
ンドパイプの扱い方など発
災型防災訓練を実施する予
定です。また火急の課題と
して下北沢駅周辺の再開発
計画の促進により、戦後急
ごしらえの木造の駅前市場
の転換を早急に実施するこ
とを望んでおります。

玉川地域

「災害時要援護者支援委員会」の

活動について

奥沢交和会 理事長 塩谷良一

私たち「奥沢交和会」で
は平成十九年度より災害時
要援護者支援の取り組みを

デル地区として、世田谷区
と協定を結び事業を進めて
参りました。

この事業は、区内に居
住する高齢者や障害者など
の、災害時に自力で安全な

場所への避難や、自ら救出
を求めたりすることが困難
な方が、住み慣れた町で安
全で安心な暮らしをし、災
害時や災害の危険が予想さ
れる時には、町会や自治会
等の地域団体が区と協働し
て要援護者を支援する取り
組みです。

私たちの町会では、平成
七年の一月十七日に発生し
た「阪神淡路大震災」のあ
と、町会の区域内に居住す
る全ての高齢者や障害者を
対象に、「奥沢交和会災害
時助け合い活動」の組織づ
くりをしました。聞き取り
調査や近隣の方の情報をも



交通安全運動

犯罪ゼロを目指して
犯罪のない街づくりの取り
組みとしての防犯パトロー
ル隊結成以降、その影響もあ
つてか、かつて多かつたひ
つたりや空巣の犯罪が昨年
は発生しておらず、更には
交通安全にも積極的に取り組
んでいます。

子どもの成長を願って
以前より代沢小学校と池
之上小学校に通う児童を対
象に、夏休み子ども会が運
営されており、町会で支給
する助成金をもとに班単位
で父兄をリーダーとして活
動しております。年一回
全員が集まる「小学生ふれ
あいの集い」を六年前から
始め、昨年は鎮守の杜コン
サートを開催しました。
辻康介さんの歌を中心に
バグパイプという珍しい楽
器も加わり、サキソフォ
ン、ギターで他にはない不
思議なサウンドでした。当
初境内で行う予定が、台風
六号の接近で、急遽屋内に
変更しましたが、会場は熱
気にあふれ、大いに盛り上
りました。

敬老の集い
毎年九月の敬老の日前後
の土曜日に北澤八幡神社の
参集殿を会場に敬老会を開
催しております。
昨年は北沢警察署から防
犯と交通担当のお二人にお
いで頂き、世田谷区が都内
ワーストの振り込め詐欺と
最近取締りが厳しくなりつ
つある自転車の交通安全に
ついてのお話のあと、楽し
みにされていたなつかしの
メロデーアイコンサートに涙
を流された方もおられ、最
後に全員の合唱で感動的な
一日となりました。
おわりに
以上具体的な活動を述べ
ることで当町会の目標と方
向をくみとっていただけれ
ば幸いです。



「災害時要援護者支援委員会」のイベント

とに作られた名簿は、大変な人数になりました。幸いにも民生委員さんは町会の理事も勤めて頂いており、名簿の確認は大変でしたが全て民生委員さんで担ってくださいました。

確認作業は、ご高齢のため病院に入院したり、施設に入所してしまったりと、各ご家庭を訪問することは毎年欠かさず行う必要があります。

かし、七十五歳以上の方のお宅を約千二百軒伺うこととはとても大変です。

この「災害時助け合い活動」が続いておりますので、区からの呼びかけで「災害時要援護者支援委員会」の新たな組織づくりへの移行は、そんなに大きな問題ではありませんでした。

助け合い活動の内容では、区から提供された名簿の要援護者への同意確認や状況把握のほか、私たち通常を取り組みに関する委員研修などをしていきます。また、災害時の一番の活動は、「災害時要援護者の安否確認」です。災害時であれば、要援護者を見守る協力員も通常の場合と同じく動けない場合も想定して、「一人に二人」としました。要援護者と援護希望

者（高齢者や高齢者のみ世帯）一人を二人以上の協力員で安否確認をします。それを、区や消防機関、避難所等の救助組織に連絡をすることになっております。

この際の「要援護者」と安否確認をする「協力者」の関係は、協力者側のみ知っています。あえて担当者のお名前を知らせないのは、時には責任の重さを感じて、「協力員」を引き受けて頂けないことがあるためです。また、あまり親しくなると、お買い物や身の回りの世話をする事の大変さを考える方もあるからです。とはいっても、もちろんご近所ですから、一般的な見守りは普段からして頂いております。

今年度も、要援護者と援護希望者が約二百五十名お

ります。

いま消防機関でも、災害時の犠牲者の多くが、高齢者と障害者であることを重く見て、このような取り組みが大切であると、さまざま所で始まっているようです。このような活動は、お互いに顔が見えたり、話をするのが無かったりと、近隣であるためにかえって難しかったりすること、時にはあるようです。

この活動を通して、日本人の優しさや助け合いの精神が強く現れる気がします。災害に備え活動を継続していくのは難しいことかも知れませんが、必ず起こりうると言われる震災に、立ち向かっていくことの大切さを、町会の会員の皆さんで心一つにしていくきっかけになればいいのではな

いでしようか。

昨年三月十一日の「東日本大震災」の時にも、「協力員」がご自分の安全確保の後、要援護者の方を回ってくださった体験を伺いました。

たしかに、いつ来るかわからない災害ではありますが、ご近所の皆さんであまり負担にならない方法を考えて取り組むのも良いのではないのでしょうか。



「協力員」打合せの様子

砧地域

二十二年度事業実績のまとめ

喜多見北部町会 会長 岡田正雄

年間業務を月を追って反省をしながら振り返って見ますと、先ず四月は総会が

ありました。三月から資料の作成に入り部長会でチェックを繰り返し、事業計画

報告書の作成、会計決算報告書の作成、次年度の事業計画案の作成及び会計予算

案の作成等、総会に向けて関係部長と協力しながら作成しました。

五月は古着古布のリサイクル回収があり役員八名の協力により九時から十二時迄作業し、2トトラック一

杯約2ト強の回収の実績でした。

七月は喜多見駅前広場で盆踊り大会があるため女性役員は踊りの練習を六月から実施し、当日に備えます。盆踊り当日は北部町会



夏のラジオ体操

名物とうもろこし焼と玉コンニャクの販売に努力します。とうもろこしは非常に手間が掛かり、皮むき、茹でる、冷ます、そして洗浄した衛生的な箱に詰めて現地に運ぶ等、人数的にも二十名ほど必要で手間が掛かる割には諸経費を考えると儲けの少ない事業である。これは盆踊りを楽しみにして集まって来る住民サービスが第一と考えています。

春・秋の全国交通安全運動期間には百名の参加を得ております。環境問題への活動については、放置自転車の警告と広報活動に参加しました。地域清掃は違反広告物の撤去等五回町内全域に渡り実施しました。参加者は百二十六名でした。青少年対策では、夏休みラジオ体操を実施し、延べ九百八十二名の参加を得ました。町会独自の継続的お楽しみ「梨もぎ大会」を実施していますが、毎年参加者が増加傾向にあり、二十二年度は四十八世帯百名の参加がありました。町会から参加者への援助としては片道の電車貸代と梨もぎ料一世帯当り千円の補助を実施しております。福祉活動については、敬老の日に高齢者に対して祝品を届けますが、二十二年度は二百五十六名に送りました。カステラと赤飯の二種類を考え事前に希望を取り、当日希望の品物を届けました。高齢者の集いとして喜多見サロンを月一回開催しております。軽食、お茶、時には食事、時には野川側道の散歩、カラ

オケによる合唱等を実施しました。この日は高齢者も楽しみにして集まって来ます。二十二年度の実績は延べ二百二十三名の参加を得ました。高齢者施設内のお祭り日には、盆踊りの得意な女性役員が盆踊りを披露し、施設の高齢者を喜ばせました。日赤関係では募金活動は勿論のこと、バザーへの参加、日赤行事、日赤奉仕活動への参加を実行しました。募金活動では日赤三十二万円、社協二十七万円、共同二十六万円、年末助け合い二十六万円等を集金し期日通りにまちづくりセンターに納めました。広報活動では月二回位の割合いで回覧板で周知して



町内全域清掃

おります。内容的には世田谷区の広報文書、警察署、消防署、小中学校広報、児童公園広報等の文書、パンフレット等二十二年度は約百件の回覧活動を実施しました。最近では掲示ポスターを含めて増加傾向にあります。

その他では区主催の会議、講演会、各種委員会、警察署、消防署、各協会、小中学校の協議会等に参加しており、町会長及び町会役員は大変な業務を実行させられています。関係諸団体に何とか減少化を希望するところですが、例年十一月三日に喜多見小学校では、喜多見地区町

会自治会連合会主催の区民まつりが開催されます。当町会としては九月から文化部主体で準備をし、とうもろこしや缶ジュース類の販売に力を入れます。会場の整備のため、当町会の担当である「地割り」(テント等の場所決め)を十一月二日に実施し、これが完了後九町会の皆様が会場作成の作業に入ります。当町会では延べ五十人の役員が参加しました。十二月は年末の二十五日から三十日迄有志五名で夜間防災、防犯パトロールを実施しました。これは今後も続ける予定です。

◎町会・自治会長交替のお知らせ

平成24年1月10日現在

町会・自治会名	新会長	前会長
野沢2丁目町会	金子 二郎	空席
馬事公苑前ハイム管理組合	城 口 順	阿 部 平四郎
東深沢町会	松 本 邦 司	松 本 邦 司 (会長代行)
給田町会	大 戸 安 夫 (会長代行)	田 中 光 男

町総連ニュース

総会

▼平成23年6月30日

第33回

ふるさと区民まつり

▼平成23年8月6日〜7日

町会・自治会加入促進ポスターを掲示し、加入チラシやグッズの配布等PRを行った。

正副会長会

▼平成23年8月9日

世田谷区協議団との予算要望等に関する意見交換

▼平成23年10月20日

- 1 社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会25周年記念式典・第9回地域福祉推進大会の開催について
- 2 平成23年度「歳末助け合い・地域支えあい募金」協賛のお願い
- 3 東京都町会連合会常任理事会報告

(1) ヘブナーアーツ

トイベント出演を依頼する手順

4 東京都議会意見交換会報告

(1) 平成23年度地域力の向上事業について

(2) 平成23年度「地域底力再生事業助成」について

(3) 東日本大震災における東京都の対応と教訓について

(4) 平成24年度東京都への要望について

情報誌編集委員会

▼平成23年10月17日

町総連だより第34号の編集方針等

▼平成23年11月24日

町総連だより、原稿の確認読み合わせ

▼平成23年12月19日

町総連だより、原稿の校正等

表彰

東京都功労者表彰

▼平成23年10月3日

東京都庁において、

西川 進町総連常任理事(守山町会長)が東京都功労者表彰を受けました。

総務大臣表彰

▼平成23年11月25日

総務省において、

後藤 正三町総連会長

(北沢3・4丁目西町会長)が総務大臣表彰を受けました。

厚生労働大臣表彰

▼平成23年11月18日

日比谷公会堂において、根岸 茂町総連常任理事(若林町会長)が厚生労働大臣表彰を受けました。

平成24年度総会(予定)

▼平成24年6月28日(木)

◎町総連情報誌編集委員会名簿

平成23年10月現在

氏名	所属
会長 後藤 正三	北沢3・4丁目西町会長
委員長 堀池 有	桜上水1丁目町会長
副委員長 木村 邦夫	玉川中町会長
委員 堀江 義之	若林町会総務部長
委員 鮎川 郁男	弦巻町会副会長
委員 池田 紀明	松原5・6丁目自治会会長
委員 吉崎 義記	船橋葎根会会長
委員 岡田 正雄	喜多見北部町会会長
委員 高橋 和夫	烏山下町会会長
委員 本橋 俊夫	粕谷会会長

編集後記

「町総連だより」を通して、各町会が事業・活動を如何に工夫し努力して、実施しているかが良く理解できます。

昨年の東日本大震災や、台風・豪雨による大洪水や土砂崩れの大災害の教訓は、「安全・安心なまちづくり、住みつけたいまちづくり」を目指す町会活動ととりわけ防災活動について、新たな課題を投げかけられました。

大都会東京(世田谷)の防災対策は、町会活動は、今まで通りでよいのか、改めて考え直すきっかけとなった思いがします。

一方で町会をはじめ、各種団体が実施したイベントには必ず、「復興支援…」の冠がついていきます。この冠が取れたイベントが、一日も早く実施されることを望むものであります。

編集委員 堀江 義之